



雲英文庫  
文庫31  
E76  
2  
早稲田大学図書館



むうへやうとととに部をゆきゆきもつてきりむ

○ゆきヨソナモオレト同シヤウニ昔カ今デモ急イカ 不モ多イニハ本ノ  
在取へ来タノハ昔カ急イヤラ

ゆきのゆりゆきはすてよまみつ

かろぎんを續しハめいふきれそのうによ申おき後る

○世中ヲウイ物ニ思テ違テラスモハオキヤカゆきハオオレバナニドウイフ  
テ世中ガウイト云テおむアタリキテアヤウオレト同シヤウニテラスコヤニ

くらものあをさそよあ 偽心遍昭

くらひはあのおろよふちやぬふりておふうハあをむくあひく

○蓮ハ世中ノ濁リニソク又譬ハニ世經ニトイテアルガサウニ 清浄ナ心

テナセニアノヤウニ葉ノ赤ヲ玉ト見セテ人ヲバダマスコトゾイ

月のおもゝらかりらよけつらきかふよせん

ふやや

なほおとまごさるがくぬくはやのつこふ月やぞる

○ア、ヨイ月デアツタニ、なノ夜ノ短イ一ハマダヨヒノマ、テ

ナニハヤ明タモノ、コノ夜ノ短サテハ月ハ、西方ノ山マデイキツクハアルマ

イガアリ、曉ノ雲ノドコヲニトツタマヤラ

とかりよるふんましのむんしのふおせりりるんき

いさをよみてはくさる、みつ

らうふんまのむんじとさふんまのむんじとさふんまのむんじとさふんまのむんじ

○手あいのコナツハカ、トウガニ入寐マス床ナツテ、大クノテゴザル、花カ

サイテカラハ、塵サヘカケイトサ、存ズルホド、大クノテゴザル、折テエニニゼ、

スマイ、  
○千秋云ハ、文上句ニニニト、  
句を次分して見へ

みる月の跡ごもりは日よめ

なと秋とゆきうふそはむひぢかかへまじき風やぬくらむ

○今、晩クヒテユク友ト来ル秋トイキチガウネノ無リ道ハ、ツノ友ノ

通ツテユク片一方ハ、ダ暑ウテ、秋トホツテクル片一方ハ、スミイ風

ガフクデアラウカイ

古今和歌集巻之第四巻後

秋歌上

秋の月日よめ

藤原敏成作

あきつぬし先ゆきさやふるしむいづも風のよみそをあらぬを

○秋ガキタイトウテソレトツキリト目ニハ見えヌケレトケフハ風ノチガ

ニハカニハツタテサコレハ秋ガキタワトビツクリシタ

秋の月日よめをのこどもかどの川原に川さうへりし

いづもふまかりてよめいほゆき

河原のこどもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづも

○川風ガカテモニア涼シイカナ信モ立トキ秋ノ来ルモ立ツトイ

ハ此岸ハウチヨセル浪トイツヨニ社ガタツタカシラヌ

髪あしど

いみむいみむ

こがせこがせのよきさげつしうらたつしき秋の初うぞ

○上コレハメヅラシイ秋風ガヤサテモ涼シイコロヨイ

飯村小こがせハ女とせりといふいづかきむらじのこがせハ女

のちかぶー又ハ林良材集ハいづもいづもいづもいづもいづもいづも

古々集方あつていづもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづも

秋風をぬくこがせいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづも

きこのかきこがせいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづもいづも

○下昨日コソハ田ヲウエタシソニアイツラニハヤウニ稲ノ葉ガソ

ヨクトシテ秋風ノフクヤウニハナウダフグ

秋風の吹ふ一日とていさかかれば天の川糸にもぬ日ハおし

○ワレハ秋風ノフキソメタ日カラシテ 毎日ハヤウニハ天川ノ川糸へ出

テ立テ君ヲメタ又日ハ一日モナク

○秋云は多形にハあるをいふなり  
るりてよめしセタのちいれ多し

いさかかれば天の川糸にもぬ日ハおし

○天川ノ渡シ守ヨ 君ガコチラへは渡リチサツタナラ 千キニハ船ノ掉ヲ

シレヌヤウニカクシテオイトクレイソシタラ 川渡ツテハカヘリチナルガナ

マイニヨツテ イウニテモコチニハ逗苗デアアラウニ

天川もみちハ橋ノムキセツヤもぬ日ハおし

○天川ノ橋ニハ秋風ノフクヤウニハナウダフグ 時<sup>五</sup>モ多イニ 柳枝<sup>五</sup>ガ秋ヲハ待チナル

あひくして河のやまはこもひたれば河の方までさうり河をさすもあはむ

○一年ノアヒタ長ノ月ヨリ 忽チテ 名タ一夜彦星ト柳枝トハ多トナサ

ル夜ハコヨヒチヤ ドウブテ天ノ川へオガ一メニ立テ 雲ウチツテ

イウマテモ夜ガアケチバヨイ

寛平内膳あぬきのようへふさかぬまのこまごちをまねて作

せしめる人ふらりしよあるととのり

河のやまは浅瀬ありあはれぬ日ハおし

○は天川ノ浅瀬ノチラシラヌニオボツカサウテ 水チカラアチヤコチヤトシテドツ

テマダハツテシイモセヌウチニハ 夜ガアケタワイ

○秋云は多形にハあるをいふなり  
ぬよのこまごち

河のやまは浅瀬ありあはれぬ日ハおし

舞つてまじしんぞけきまぬれがね年ふじびあまらりようは

○一年ニタツタ一なヅト約ホシテオイタ概機ノ心ガサキコエヌ一年

ニタツタ一なヅラ井アウノガアウノカソレヤアウト云モノデハナイ

七日れ日の夜とめ、 九河内躬恒

年ぶつにあやといれどあねどこのぬよのねどまをかりら

○概機ハ毎年懸ツシヤリスレ凡一年ニタツタ一なヅナレバ懸ツ

シヤル夜ノ救ハサスクナイコトチヤワイ

もねどふかいつふれうちとて年のをそくこひやわつて

○夕バタ祭ニヨモ手回ノス借ヲタ系ヲヤウニ長ウ引ビテヨカラモ年久クハヤウ

ニモウ思テ月日ヲタレテデアラカモハヒメカマラぬのがねのちまら

野あづる

そせん

あしひらく人ノハ河内もあまむけに神祭まらもをすれ

○今夜クル人ニアウマイ今夜ハ七タギヤニヨツテ概機ノ久シ一年ノ間ガ

待ノニアヤカツテコチモス待ツヤウト中ニテルモアラウホドニ

なぬれけの味ふよめ

源ひのゆきののねら

今ふとしてかきけり天の川もぬきけふ神ぞぬちねら

○サアモウト云テ別レルトキニハマダ天ノ川ヲ戻リモセヌサキニハヤウ

ニ神ガヒツタリト返デサヌレタ

やうく此日とをる

みよのあぐみね

くまりのふとむこいね日波ぞりやらのとけりふなまき

○夕ナバタ振ハサヅ 今日カフシテハ 又今カラ来キ奉ノ七月七日昨日ヲサ  
イワカクトヒタスラ待テ月日ヲタテサツヤルデアラウト思ハレル

秋ノ色

よき人

こはよしのりもさくさく月の影をまばらにばらばらに秋をまきふらふ

○木ノ枝ノるガモツテクル月ノ影ヲ見バ 度ウ見ルハ手ガウテスコゾクホカス

エ子バサテクシキナ物チヤ 是ラ見バ今カラ趣躰モゴトシキチ秋ガキタワイ

大くこの秋らふかふかおろろをかきまきまのと思ひいーかぬま

○世る一回ノ秋ガキタカラシテ人ハヤウ六ナイサウナニオヒトリガサ 秋ハカナ

シイ物チヤト思ヒシツタ 秋ハオレ独ノ秋デハナイ世る一回ノ秋チヤニ

さかぬえふく秋うーもろくおぼれひきまきまをうづを思ひま

○オレニ悲シウ思ハサウタメニ来ル秋デモナイニ 虫声ヲキケバ人ヨリ  
サキヘマツ一番ガケニサ オレハカナシイ

おろろふ秋どかろーきもみらつうつろひゆく秋限りとしるハ

○草本ノダラク色ガカハリテ 秋テイクノハ 草本ノヒニイニナルノチヤガ

オツケサウ物ノシマイニナル時草ノハジメチヤト思ハバ 趣軒ノ物ナニツケ

テモ 秋ハサ 悲シイ 秋ノ色

むしりぬきとくさ草葉ふらふひもも秋をうひひあまかりら

○草ノ葉コソフ秋ハ草デメルモノナレ ワシガヒトリ子ル床ハ 草ノ葉デハ

ナケレドモ 秋ニナレバ 草ハハヤウニ海デ、草ノヤウニヌレルワイ

あまのこころのあはれ

つ月をよめをこめしど秋の夜をもめよとてけりけりけり

○イワハ物思ハヌめチヤトスめ弟ノ差別ハナニイワテモ物思ヒハアル

ケレドワウチニモ 秋ノ夜ガサ イツチヨルヒスル頂上チヤワイ

かむるもはほがふくくつたりて秋の夜をいむを

いみりういでふらる みつね

ほがハハ坪の内をて 梅壺を壺がじりやとその心坪の内小

あふ本多はもてその舎は異名にたつり物かむるのつりも

雷の音くるとちありしり 矣名ふなる之壺字ハ宮中術謂之

壺とてはてし器の壺ハ別なりまかやうてけり

かくらりをいとよめをけりてつりてけりてけりてけりて

○コレホドニ面白イアツタラ秋ノ月夜ヲ寐テシメウテ弁ツボくトめス人

モアラウガサウシタ人マテガサキユエメーチヤト思ハレ 竹材ツとづ

の流るるーしとづふ様てハ様てつとげくやとらぬし

野ーらば よるびやあし

ふやふもよちちふーとぶ房のねさへんゆら秋のよめ月

○サテモサヤカナ月カナ 雲トグホドニイ空ヲツレダツテトテテク雁ノ教

マデガヨウ又エル み林云ふのちかそハワつてもほくちりて居る

さよ中しおハゆきぬし房がひのゆゆるちりー月をさるる

○夜ハイカウフケタモウニト夜半ニツタサウチ 又レバ房ノチク声ノ

ウエルズツトツラフ方ニモウ月ガハツタ



是夜がこの秋に余より大に子星

月をきばちふものくかみしとふおどりの秋はけしきど

○月ヲスバオレイウくおがサ悲イワイオレヒリク秋テハナケレド

あがみ

おきくお月乃るも秋ハあやみぢきれをてるとまゝむ

○月ノ申十桂ハハ玉土ノ木ノヤウニ秋ガヤト云テモお染スルナドニハアリソモ

ナイモノチヤニソレモヤツバリ 秋ハお染スルカレテ イツモヨリハ光リガテ

リマサツタ お染シタニヨツテハヤウニ照リマサルデアラウ 打ツまらし

月をきばちふ

互原、え方

秋の影は月のせりしあけきばちの影とあぬぐま

○ハヤウ二月ノ光ノアカイ秋ノ影ハナニボ闇イクラブ出テモ裁レウト思ハレル

人乃もゆふすあまらき 影まらむぐその影きけ

影まらむぐその影きけ 影まらむぐその影きけ

きらむぐの影きけ 秋の影は思ひいふとまらむぐ

○コレ内亭主キ松ハ心苦ガオホウテイウクノチヲ思フテ夜ノ長イラ明

シカ子ルトイハシヤルガ内亭主アキリぐスト月シヤウニアマリ泣シヤルナイ

心苦ガ多ウテ秋ノ夜ノ長イノガニワチハキ松ヨリ 拙者ハサナホ

ノコトチヤワイ 内材打ツとめふくはし

是夜がの影れる合のち やしーゆきの影

秋の影は月のせりしあけきばちの影とあぬぐま

○は長イ秋夜ノアケルモシラニアヤウナク虫オレガヤウニアレモ物が悲シイカシラヌ

野老の文

よみ人しらす

秋の夜も多ぶきこぬさびしくわが秘ぬきやうらハからしき

○秋ノ葉モ色ヅイテソロク枯カケテクル時ぞ夜ニナツタハ物悲ウテ夜モ子

ラニニアノ蕃モ同シヤウニ夜ハ鳴スソチモオレガヤウニ物がカナシイカ

秋の夜を多ぶきこぬさびしくわが秘ぬきやうらハからしき

○草ムラゴトニアノヤウニ虫ガ難美ガツテナクノヲキケバ秋ノ夜ハ多

カサカクヘツニキイサウナ

志志のぶさあふやうらみくぬくはまの虫のさびしかりり

○人が見ステ、ヨリツカイデドモカモキツウアレテ軒ナドハシラズガハエテ

又若きウチテ其人ヲ恋シタテ居ル家デハをテナク松虫ノ声ガサ

人ヲ待ト云名ユエカ一入カシウサエルワイおぼやつこのはらし

秋の夜も多ぶきこぬさびしくわが秘ぬきやうらハからしき

○此秋ノ野デモウ日モクニ及ブ道モフミマヨウタホドニアノ人ヲ待ッ

ト云名ノ松虫ノ声ノスル方ヘイテ宿ヲカツタモノデアラウカイ

あは乃せに人まらしむれんおぼやつこのはらし

○此秋ノ世ニアレ人ヲマツト云名ノ松虫ノコエガスルワソチヤオレマツ

ノカト云テトヒヤ行ノオミマヒヤサウ

ゆみぢ葉のなてはなれるまが屋ぶれをまの虫さうらみ

○モミチガ散テツモツテ流セフミ分テ来タ人モナイコチノをテタレマツ

トテアノヤウニ虫ハキリニ鳴コトヤラ  
タレモ来ル人ハアルハイニ  
オツヨクし 維材ヨリ

むぐしはあまうるあべよ日はあめとあふ山の陰をさす

○ヒクラガ鳴タニツレテ日ハクレタト思フタハサウデハナカツタ 山ノカゲデサ

鶯イノデアツクワイ

○子秋云々ハハ並あててさしとかまてなすハハ  
よきんつひおきて英とさくといふもさしふちかし

日ぐししのかく山里は夕暮ハ風よりあふふふ人もあし

○ヒクラレノナク此山里ハユフグレニハ風ヨリハニ一向ニ夕子テクル

人モナイ アハサビレイコトヂヤ

一 山々をばあ

左系え方

山の人ふゆぬ物さくさく山をさくさくさくさくさくさくさくさくさく

○待メガキタカナブノヤウニケサ始メテ居ノ鳴ク声カサテモノツラ

シウ思ハレルコトカナ コチガ待テ居ル人テハナイヂヤケレド

是夜は家のあかればさ ともこのり

秋風ふもつるあまのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

○秋風ノ吹テニアレ始テ居ノ夢ガカスル 居ハまをがカラノ秋ヲクビヘ掛テ

持テ来ルトニチヤガ アノ鳴居ハドコカラタガ吹ラカケテキタノチヤヤラ

野あしどろ

よみ人あらし

わぐさふつるあやせをのびくさふらさくぬく風ふ居ハきふりり

○コチノカドデ 稲原鳥カナクニツレテケサノ風ニ雁ガキタワイ

いしんやもねはぬさうあかあかのさくさくあくともみぢりあみ

○キツウ早ウニア雁ナイタカナ 赤色トル木モダロクニ紅葉モセヌキニ  
去る處もみみしや かしごの八人をもつた 秋あけうへり

○喜 鹿ノ中ハカスミユルエテイニダダガ ソノ時ノ鹿ト同シヤウナ秋  
ノ音ノウヘノ方デ アレ今ヤ又ナクハ

虫をききみし終もかりごのねくまふ秋の下葉もうつらひふる  
○夜がききサニ衣ヲカルト云名ノ鳥ニツレテ 秋ノト葉モウツロウタロイ

此のあゝ人のいしくかまのむぎの人多うがごとく

冥雲晴きまのちれあ合のち 春原菅根船屋

秋風よををほふあきしく 船ハつるのし海もるあをりけり  
○アレクアノ声イ 海キウチツララ 秋風ニ声ヲ高ウ帆ノヤウニアゲテ

船ノヤウニヌエテ来ルモノハ 鳴テワタル雁ヂヤロイ

かりねつらねはすてよある みはり

うらみは思ひつゝねえなるごのねえと後さ秋のふねく

○乃ノイクワモワラナワテはテワタルヤウニ オハハ秋ノ夜ノウイノ  
おこヲオモヒツケテ毎夜くはテサアカスワイ

是れみこれ家のち合はち 心界

山里ハ秋ノとあふふとび ち統去うねつふふををりつ

○山里ハイウデモトヌウキニ秋ガカ別ニテツラウナギニオハルワイヨルク  
鹿ノナク声テ目ヲサニハ 夜ハキニ何ヤラカヤラト 雑草ナクヲモヒツケテサ

とみむやうしん

おく山ふもみらぬとお手も写麻は夢さきく時を秋もうねりま

○秋ハ悲新カナシイ時ぞは千ヤガも秋ノ内テハ又ドウイフ時ガイツチ悲  
シイワトイハハお紫モモウ友テニウ多奥山デフ友夕お紫ヲ 麻ガフミ  
ワケテアライテ時声ヲキク時分ガサ 秋ノ内テハイツチ悲シイ時ぞは千ヤ

ぬこくけハ麻はあこもくし

秋はしんば

秋は秋よりしむ色をれを星川の心ちととみ麻のぬくらひ  
○秋ノ紫モモウ枯テイクラヌテ時ぞはおガナシニハヤウニウナジヲナ  
ケテ居ルニドウニテアノヤウニ山ノ下ニテヒクホド麻ガウゴトヤラアノ  
麻ノ声ヲキケバイヨク想ヒウテドウモ夕ラヒニをれびをくふのこくし

秋は秋ととみしむ色をれを星川の心ちととみ麻のぬくらひ

○野ノ秋ノ中ヲフミアラテオシラセテニカラニニテ時アル麻ノ目ニスエイ  
テアノア声ノサヤカニヨウサエルトワイ

気欠みみおれを余よあ あぢりけどいよきの秋は

あきとびの花はふらして砂のをのへ乃麻はくまやぬくら麻

○アレ秋ノ花ガサイタワノ 山ノ麻ガモウナクデアアラウカ

ひや けいさくしてゆるくの秋乃ぬきてあひておがり  
しんばいひてふよあき みつね

秋は秋乃ぬくえふのまはさつるまばりやの心をくまはせりらと  
○秋ノ去年ノ古枝アレアノトホリ 又花ノサイタラヌレバ 草木デモ

へカタノウラバ忘レハシセヌワイ  
スレヤソコモトモ 中絶ハ後シタケシ

ド先年ハコニイニ後シタケハオワスハナサルマイ

野 ありきど  
よみ人しをば

秋もぎれ下紫色はく今よりやをとらし人のつぎふまき

○秋ノ下紫ガソウ枯カケテキタア、いよ夜ハ長ウチラウモウコカラ

又オレガウチ独ス者ハ子ラヌデアラウカまヤま ○秋ノ下紫ハ白キ

つらつら秋のつゆやあらつらきお思ふ身やのそれ乃とけは

○アハテ、悲シイコトノをアノ秋ノウへ、ま秋ノウへ、ま秋ガキツウニゲウオイタガ

空ヲワタル雁モオレガウニカナシイカアルカシテ泣テイク スレヤアノ  
雁ノナク後ガオチタノカシラヌアノ秋ノありハ

秋のあけりぬむとれをまぬよりを人ハ枝あがアス

○秋ノあけガキラクトシテアマリスルサニ玉ニシテワナカウト思フテトツタハ

チキニ消タテワソニテラヌヤウト思フ人ハトラズヤリ枝ニアルマデアヨサ

つるのさくはあはれのみをばけりし

をりて足バちをぬき秋の枝とらむにわらふふま

○秋ノ花ノエタモヒウクトタワムホドオイタアノ秋ガキツウスルサナガ

アシヲ折テ取テアヌヤウトシタナラサダメテ落テシウデアアラウ

もぎがふらつらふらつら小川のあやふまきをりひさよぬくとも

○今夜妹ガトコロヘイカウト思フ 野乃ハ秋ノ花ガ取テサゾ秋モ涼イデ  
アラウガヨイワヌテイカウツ 夜ガフナテあハシゲクトモ 秋をわしよハ

くまのしんと万葉ふ多し皆悦。よ林云ねこてそのをハ助祥なぐ

色見むおぬのあ念にあり 文彦 けきやま

秋のやふおくちきるあまきとぬれやけくぬきかくくもれ糸をぢ

○秋ノ地ノあハ 玉子ヤカレテ 珠ノ系スデヘツナイテカケタ

野あ〜文 傍正遍昭

名ふぬぐくおまじらりぞ女をむくれおちふきとくまか〜るお

○女郎花ト云名ガヨサニ 千ヨツト馬カラオリテ 尻タバカリチヤゾカオラズ

オレガ女ニオチタト人ニ云デハナイゴヨ 。十秋云そのく〜ゆ〜き〜や〜の

多〜〜〜おまじら〜ハ〜〜〜ちり〜ちり〜げ〜み〜

をけき〜ハ〜〜〜び〜す〜〜。

傍正遍昭がわゆるおぢら〜ハ〜〜ちり〜ちり〜ぢふを〜あ〜

をみ〜〜と〜〜〜 野〜〜い〜みら

を〜〜〜し〜〜〜つ〜〜〜を〜〜〜〜と〜〜〜

○アノ女を花ヲバア〜イタツラナ女チヤトセフテオレハヨソニステサをリ

とテイクコハ男山ナハ 男ノ中ニミヅツテ居ル女チヤトセフニヨツテサ

是欠み〜ぬぬのあ念にあり と〜ゆきのおぢら

秋のやふや〜り〜〜女らも名成むつ〜〜揺あ〜お〜

○トモルナラ秋ノ地ニト〜ルガヨイ 女をむガアワテ女ト云名ガムワ〜

<sup>五</sup>ヨソデ寤ルヤウテハナイワサテ 二のツレを〜とつ〜

おぢら〜のふ〜と〜え〜ん〜

野らへん

そのい〜ん

をみる〜あやかしをくむふやあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

○女らむるノオホクアル野ニトセフタナラノケケナイニアダナ名ガタウ

カレラヌ 女ハト云ハ名バカリテコアラレホニア女デモナイニ

朱雀院のそとに〜あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

たのおもむき〜ちきこ

をみる〜あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

○ヲミナシガ林ノ外ニシロクガタニヨセテアラヤウニシロクヤラ

心を〜あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

藤原定方御乳

秋あ〜あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

○天ノ川ヨリタバタノ秋テオウテハアヌ取ナレアリ女ハ花ハ天川ノカハ

ラニハエテアルデモナイニ秋テオウテハアヌ取ナレアリガタイ女子ヤ

あやかしをくむ

あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

○誰ガ飽タトイフ秋デモナイニ女郎花ハドウニターゾアリヤウ

ニ色ニ出テ眼ニテマダ早イニウツロウハ

あやかし

あやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむあやかしをくむ

○アレ妻ヲヨヒシタウ麻ガサアレナクハヤッチヤ女郎花ヲ己ガカヨ



ウヤノ花ヤトハ知ラヌカイ 女をトハバ女子ヤニ ナゼアハヌゾイ  
とみまへー吹とてらる 秋風を吹るハハッて 神はよをさるる也

○女をトハ吹テトホツテクルハ 目六ソトスエヌケレド テウド女ニ逢テキタ  
男、ウツリガスルヤウデ 女房をトハ吹テキタト云フガ 香テサヨウニルワイ

とみみ孫

人乃んるにやうに地をみるし 秋芳にのこるあかららむ

○女をトハ 女ヲハツカガツテカクレヤウニ 考ニカクテバツカリアルガドウ  
云フデアラヤウニ考ニカクレヤラ アレモ人ノスルノガメイワクナカイ

とどりののこぬむるるハ 女をトハ吹テトホツテクルハ 目六ソトスエヌケレド  
○女をトハ吹テトホツテクルハ 目六ソトスエヌケレド テウド女ニ逢テキタ

ヨリハオレガヤドヘウツシテ植テ スハヤレテヤラウモノヲ 解材ふま  
かふにーおする也し。 女の子をばいしてかたりけりやうにやうかり

ものまかりきる 少人のあまをみる下うと  
りあるとつてよえく 兼見五

女をトハ吹テトホツテクルハ 目六ソトスエヌケレド  
○アノ女をトハ吹テトホツテクルハ 目六ソトスエヌケレド  
アキツカイナ物カナ

空を吹る花人石をのこるもろが花小石をむむ  
まかりあまきる 少人のあまをみる下うと  
でふとせぬぬ 平けぶぬむ

おふりぞいりく〜ひをみる〜ちやく〜せぶ小袖なま〜物を

○スミナ色くノ花ヲハライツハイエズニナゼニヤウニカハルヤラ 女良を  
ノ多クアル也テコヨヒハ子ヤウデアツタモノヲ 女ト云名ナレバヨイトリ所ヤニ  
乞食分はぬのう系よる や〜ゆきの形は

なふくまき〜ぬぎか〜衣を〜ぬく秋も小袖をゆか〜次

○バフヂバカハマヘカタ何人ノ着テスキカケテオイタ袴ヅ 毎年く秋ニナ  
レハハヒヘンヲホス 今ニハヤウニホウハナデモコハナニタイテイノ人ノ袴  
デハアルイヨクく〜キくノ人ノ袴デ 香がヨウシメテアルユエデアラウ

若袴をよみて人よき〜る け〜ゆき

やどりせ〜人のか〜こらぬぢらぬ〜と〜れが〜いよふあひけ〜

○ハ衣袴ハイツツヤハ方テオトナサレタキ根ノ形足ニオイテゆり  
ナサツタ袴デゴザルガ今ニラスガ多イ香ガホフテサキ根ノヲハナツカキ存ズル

ぬぢらぬかよふ〜る こそやふ

ぬし〜らぬの〜とあへも秋のゆふしぬがぬき〜る〜夜もくぬぢらぬ

○ハフヂバカハハ秋のゆへタシガヌイテ掛テオイタ袴ヅマア 主  
ノシレマ香ガサニホウテアル

野あ〜げ まら〜文

今〜り〜り〜る〜ふ〜見〜ト花〜を〜見〜は〜不〜物〜秋ハわび〜り〜る〜

○スキハドコニモ多サニアル物ヤガソレヤトウモセウコトガナイチヤガ  
今カラセメテハコチノをニトリトモ極ニハ尼ヌヤウニセウゾアヤウニ落ノ

穂ガデ、秋ノケニキガエエバ キツウ物がナシウテナニキナワイ

ふふハ、ぬりともものさき、飾材ぶふのそなふら記地を

寛平のききまはあふをいふ 左京のひの子やま

秋のゆら乃 葉のあひくう花をききほふ知しやうひく神とるあむ

○ス、キ、ホ、ノ、風、デ、ナ、ビ、ク、ハ、テ、ウ、ド、人、カ、色、ニ、テ、  
衣ニイ人ヲマ子ク袖ノ

ヤウニエエガ スキ種ハ秋のせノ惣餅ノ草ノ袖カシラヌ けちにて

袂と神とハと何と云くものこせしけりて  
○秋云うやうにありうら  
えの格は澤きふたじ

素ねは清

くものもやけいことおひきりぐとぬく夕暮のやましくあでと

○キリぐスガウテ面白イヲカゲニスウニ候テアルアルナデシコト云鬼ヲ

母親ヤ乳母ナドモ打ソロウテトモくニテウアイスルヤウニ 夕レニモカレニモ

アセテ賞覧サセタイモノチヤニ タツタ人ノ手テソダテル鬼ノヤウニ オレ

ツカリガア、ヨイ鬼ヤト云テ 独リスハヤサウコカヤ アツタラハ花ヲ

飾材後の鏡ちうーおすこあー

歌あーべ

よみ人あーげ

みどりぬるむの草とをまへえし秋を色く花をそまけふ

○春見夕時ニハタ皆回レ青イツノ草チヤトツカリ思フタガサウテ

ハナイ 秋ニツテ今見バコレヤウニイウクノサツる花チヤワイ

ゆらぎ花乃のむとく秋のせふあひくもむ人なやが花を

○ソウタイ花ノ冥クヲ紐トクト云ヤガ けヤウニイウクサツぐノ草ノ

花ノ葉紐トイテニダレテアル面白イ秋ノ中デドレヤコチモアノ花  
 ラ賞翫シテトモぐニニダレテアハウラツクサウ 人が足タナラアレハ<sup>五</sup>  
 二了何ヲチヤトフニ思ウデアラウガユルセク

月系にハシモシキヲオホシキモノのちハウのひぬとも

○キルモノヲバ 月系ノ花デスラウ エイ色ヲ物チヤ シタガ外へ色ノウ  
 ツリヤスイ物チヤニヨツテ 物ノ姿ニタレタラ 色ガ外ノ物ヘウツテ  
 シニハウモシレヌガ エイワサ 後ニハウツ、夕ト云テモ

仁和のみやあみとふおわり ぬーる時をわらふに後  
 せむとしておはしはしるさふ通照が母のあふやどり  
 きる時を成秋のふれをよむむおがりのほい

おもひをこもけ  
 傷心通照

里ハあもてくまゆりにしをどられやなもほるは秋の中らね

○イヤドノ美ハ 里ハアレシタ里へ 住デラリスル者ハ老人シ波シニスレ  
 バはより不都合ナ 宿ユエカ波シニテ 在モ籬モ 伊傍トサニス  
 トホリトトハヤ秋ノ世系デゴザリニス 上ウのニあむゆつくり

古今和歌集卷才五遠鏡

秋歌下

是欠みこおのら合はる 女を原より

吹のふ秋の草本れをきり秋がうづら風を吹しとつら

○フクトソノマ、秋ノ草ヤ本ガアリヤウニシラレバ むすびをナリヤソレデ山ノ風

ヲアラシトハニテアラウ ○秋云々... 又あるま凡とつら

草も本を色かきとどもア ○海ノ浪れをきり秋ありけ

○草デモ木デモ此秋ト云時を長ガアツテ 皆色ガカハツテ 枯テシマウケレ

トモアノ海ノ浪ノ花 バツカリガ イツデモヨシヤウニ咲テ 秋ト云ーガナイワイ

秋の多合ーける時不ある きりけりーも

かみぢきぬときは乃山をぬく風のきりや秋をきりけり

○秋デモ木紫ノ色ノカルト云ーモナウテ常佳日ニーヤト云常磐山テハ時を長ガ

イツチヤカレヒイガ 秋チマト云ーハ風吹き バカリテヨリニサテタテ アラウカ

秋の多合ーける時不ある きりけりーも

きりけりて原を吹ぬかきあわしと秋原もみぢきぬ

○考ガ立テアレ原ガサワ コレデモウ片岡ノ 秋原ハ 紅葉シタデアラウ

かみら月をきりもいしとぬきふりけりけりけりけり

○木葉ヲソメル十月ノ雨モマダフラスニ 神ナヒノ杜ハハヤ葉テ赤下色ガ染ツタ

らりやぶの秋もみぢきぬ

○心ノカリヤスイ人ニ思ヒラカケルハアウチーヤヤガ け秋ナミ山ノ紅葉モ

ソチモノチヤ 思ヒカケマイヅ ホドナリチツテニマウモノヲ

欠観時時綾綺殿のまふ柳の本方らとやのうふ

きせらりる秋ののみぢきぬ

どりのよみうついでふよる 藤系からおむ

回一えんを紙をよのむ秋のつゆを紙を秋のつゆを紙

○日シハ、木ノ枝チヤニ西ノ方ヘサシタ枝カトリ分テアノヤウニカハツ  
タラズハナルホト西ガサ 秋ハジメチヤワイノ

いー山よゆいできる時おはなるお家成るく  
よをゆ

秋風の吹ヤーロよりおとそ山を紙折も色づきよる

○秋ノまツメタ日カラシテ凡ノ秀モカツテキタガ今日凡レハ山ノ木凡モソロ  
ソロ色ガツイテキタワイ

○秋云、比澤まて上りをもねへし、折ゆとて、  
凡のまゆり、くろまを、とせ、くろりのまり。  
是れみらのおれま合ふと、と、ゆきの折居

白雲の色ハ心とゆいと秋乃このを紙にをむ

○まろ色ハ皆同シツノ白イ色チヤニドウシテ秋ノ木ノ葉ヲアノヤウニイロ  
イロノ色ニツメルヤラ

壬生忠男

秋の折れ葉をばあとおきぬがうらやゆををむ

○秋ノ折ノ葉ヲバ白イ葉テソノマデオイテ 別ニ厚ノナク薄テ  
アノヤノ葉ヲバソメルカニラヌ

秋の折れ葉

よみゆい

秋の折れ葉をばあとおきぬがうらやゆををむ

○秋ノ葉ハタッ白イ物チヤトカリ思フテ居ルガサウデハナイサウナ色ニチガウ



やまやむせむしりまがりきいふたむらぶらふかぼりて  
アウツルはらてよめり きれとともめり

よぐこののおききねむバク秋音のらなはふるばきうろくしじ  
○此サホ山ツル紫ハタガタメドノヤウニ大切ニスル錦デアノヤウニ旁ガカ  
クレテ人ニモアヘヌヤラセツカクね紫ヲアヤウト思フテキタニ

き災ニこれおのり合れりよみ人あしび

秋ぎりハさきハねえらそ依保山のものこの紅葉よそふてしとんじ  
○旁ドウグケサハ立テクレナイアノサホ山ツル紫ヲヨソカラナリトアヤウニ  
秋のちとれしめり 返とあさきけり

いふのここの色いりとれど秋は海にもねあふとすくわねり

○ワウタイ柞ノ本ト云モノハナニボ染テモ色ノアマリ濃ウハナラヌ物ナリ  
今ハサホ山ノ柞モ色ハウスウテ深ウハナイケレバアノケレキヲアズレバ  
サテくてア秋ハイカウ係ウナツターカナ

人のきんぎふふ葉にむらびつきをくゝるりるが

いづつてはきくとひりのねん

くゝるゝゝをむねを秋をきくねやいづつむらび花ををりら根之枯クヤ  
○カウレテウエテアオイカトスバコレカラ後 秋ト云時ハナイコトガアツタラヨ  
サカヌノモアラウカレヲヌガ 秋ト云時そのサアラバ候ヌト云アルイハ今年  
ノ花コソナツテシバウケレ 根マデガ枯ウカ根ハカレハ世子バイツマデモ  
毎年秋ハ候デアアラウハサテ



宛葉伊時きく花をよむせ給くきき

オヨマセナサレタ

とーり、給花

むかひにけそこのくへましてんも葉ハ何戸の早もどあやまされる

○カヤウニ禁中デアスル菊ノ花ハ雲ノウヘテゴブリマニヨツテ天  
ノ星チヤトサトリチガヘシマスルワイ

けちハヤとて願上ゆゑさきざつてきくおふきーあ

まーもてほろりまろりとなん

是尺のみこ給のま各は秋 紀友明

あまぎをりてかざしむ菊はむおいをぬ秋のきーかろべく

○葉ノあハ菊令ラ長ウスル物チヤトキケバイツテモ年ノヨラヌ秋ラス

レウき子テ長生カキラスルヤウニ此葉ノ花ヲ考モソマ、テ折テ頭ヘサ、ウ

宛葉伊時きこのまれち合のち 大は子里

くまー時花すらとふりー菊うつらふ秋ふあつちとやんし

○まウエ夕時ニ早ウ花ノサク秋ニタイトマチドホニ思フタ葉ガマア盛

ガとテモウ色ノカハワテシウ時花ニツツテハヤウニナツタラヌヤウトハ

思フタカイ 。子秋云給やカドハヤ。そのまにてうつらふ

あまのド時きーまろり葉令ふらつちつちりし葉

乃むろ急しりろふらまらるあまきつげのほれふ

葉極しりろるをさる まかろり給花

秋のゆきにあまらるあまぎくハ花うけぬのほのよすか

○秋風ノフク吹上ノ候ニアルアノ白イ菊ノ花ハ 花カ サウデハチ  
イカ浪ノヨセルノカ 凧ガフクナレバ浪ノヨセルヤウニモスエルガ

仙あふ葉あふ成あふるあふをあふてあふ人あふのあふつあふきあふるあふかあふくあふとあふめあふるあふ  
素性法師

ぬきそへほきし山路のきくはあのみふつうふ年辰あをふりむ

○左面ヘカハツテスレバモハヤ千年モスヤウスチヤガオハ仙人ノス  
ミカヘイクトテ 山乃ノ葉を中ヲ分テイテ其葉ノ多ニキル物ノヌレタ  
ヲ干ス間ホドノチツトマデアツタニイツノマニア 千年モタツタヤラ  
まきくはむのゆきゆて人の人まきくかきん成よあ

とまのり

花あふつあふくあふ人あふまあふりあふとあふきあふまあふをあふはあふくあふのあふ袖あふくあふのあふまあふぎあふらあふやあふまあふねあふるあふ

○花ノ葉がラヌイくクル人ヲ待テ居ルトキニハソノ白イ花ガソノ  
クル人ノ白イ衣ノ袖ノヤウニエテ ヒタモのッのチヤカトトリチガハル、ワイ

大海の比乃くくふ菊くあくくをくくをく

一もや〜思ひ〜き〜はかなきの比はをふり〜れ〜る〜急あふきあふるあふ

○夕あふ夕あふ一本あふチヤト也あふフタ葉あふをあふチヤニあふアあふハあふ比あふ底あふニあふモあふアルあふワあふアあふハあふ比あふガあふ

比ノ底ヘモウエタヤラ イヤクヨウスレバ新ノウツヤタノチヤ  
○千秋ま〜る〜まではその影あふハあふみあふちあふれあふきあふそあふぬあふのあふくあふこあふん

中あふけあふらあふうあふねあふきあふ〜はあふ思あふひあふらあふれあふをあふりあふにあふきあふ〜めあふをあふ  
とアんでようせんる ぽ〜ゆあ

秋のきくありやうにアハクぼしてむむよりきけしちぬあや成

○兼ノ花ヲ カウ咲テアルウチハおルマデハカガレテアスバウゾアノむヨリ

サキハ死ナウモシレヌあガチヤモノヲ アソバイテハ

白葉れをよめる 丸の内につね

むわふそくばやをくしおまのちきまごいききあきくの家

○アノヤウニ初おガオイテ 花ヤラ兼ヤラシヌヤウニガウテスエル白イ兼ノ

むハタイガイスイリヤウデヲラバ折モサウガ ナカク足分ラル、一テハナイ

是矢みのあけら合のう よみ人あき文

いほろつる秋のきくをばとせふゆきびふあふ花くくせくも

○ハジメホドハトト格別ニ色ノカツタアノ兼ノむハ日替ノ花トハスエヌ

一年ノ内ニ二度サイクをギヤトサ思ハル、 餘材トウき遠くおすよらじ

仁わろふ兼れむゆーらゆふらそくくなれとおろせ

らきりればうてなりりる 平らぶぬん

秋をおきておくと有りれきくはむうらうらうに色のをまされを

○キクノ花ハウツロイマニテカラ 又カヤウ始ヨリハ色がサリマスバ 秋ノ下サ

カリバカリテハゴサリマセヌ 秋ガスギテカラ又マイチド 盛リ時兼ガサゴサ

リマス 恐レチカラ陸下ノ伊美モい菊ノ花トホリトなじまりマス

人おあぬりききくの花をうらうらうをうら

まきとくをるる ぬくぬ

咲そめく屋ざーうらも兼のむをきくよとてうらうらひふりれ

○此葉ノ花ハ始メニ咲タヤド、ヤドガ替ツテウツクタレバ西ノウツクタバ  
カリカ花ノ色マデカ、アノヤウニウツクテカハツタワイ

歌一々ど

よみ人一々ど

佐保山のももこのお紫ちりぬべいよるさくえよして〜月影

○アノサホ山ノ柞ノ木ノモミチガオツケ、アウニエエルヨツテ 昼バカリ

テナシニ夜モ人ニ見ヨト云テアノヤウニ月ガアカイ

みやづく久〜はく〜ま〜で心黒よこりりゆり

りふよりの

藤原関雄

おくふ乃のそりぬのむぢくアぬ〜〜日の光ア〜時な〜て

○ヒヤウニイ岩ノ築地<sup>ツイダ</sup>ノヤウニ立テアル隕ニアル奥山ノお紫ハ日光ヲ

スル時モナシニおテシニウデアラウト思ハレルガア、クチラナイオレガ身入  
ウモテウド此お紫トはジゴヂヤ

歌一々ど

よみ人一々ど

立田川もみぢらみぢれてぬぢるきり渾〜バ後中や〜えちるを

○立田川ハお紫ガチリミダレテ今<sup>サレ</sup>流レルヤウスニ思ハレルソレバ

今<sup>サレ</sup>流ツタナラバアウタラ後ガニ中カラキレデアラウカイ

ひまはりの人な〜のみまのゆあ〜くまむしん

〜〜のり〜ち紫ぬぢるおぬぢのみぢらぬふ時ぬぢる〜し

○此川ニお紫カナガレ、おナヒノ山ニ時ぬぢガレテ風ガクサウチ

ぬぢ〜ゆふのや〜〜ぬぢ〜せ〜ぬぢ〜

又ハあきくわみぢ紫流る

此方不況人丸新

あきくわみぢ紫流る

○お紫ハモウあテニウタガ今カラモ 夜夕お紫ノ色イ時六此夜紫ラ

ナリ凡見テ電セウニツノヤウヨウへ吹テラニテヤルナイ コノ山オロシノ風ヨ

○秋風ニエカミぢ紫ハちりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

秋風ニエカミぢ紫ハちりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

○秋風ニエカミぢ紫ハちりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

定マラヌヤウニオレガ身モチホノドウナルヤラシレヌガカナシイ

秋もきぬお紫ハちりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

○物ガナシイ時節ニハちりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

紫ラフニ分テクレモ辰子テクル人ハナレ サテモく何モカモワロウテサビシ

イノカナ 三つのをりドふをほくべし 蜂材ふ初白を秋乃

葉ハ赤ぬしりまきくわみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

まふり何れも何あやし

あきくわみぢ紫流る

○アノ家ハイルルハアノヤウニお紫ガチリイテタシモ人ノシラヌヤウニ

フミワケテコヌヤウニト 樹シテアルルヤニ サウト見ナガラソレヲフミ

分テ今サラ見舞ベキトカ サウト見ナガラフニ分テ見舞分ヤウハナイ

秋の月ニびさやふてしせまおつる お紫乃らみぢ紫とワケシテヨクコノ山オロシノ風ヨ

○月ノアノヤウニ山ヲサヤカニテラスハ オチルお紫ノ数ハイクウヤト云フ

ヲトクトスヨトテノカヤ

吹ぬれら乃ちくきふそつゝは終れるものちきばわりらと

○風ニ色ハナイモノヤニ アノヤウニ風ラク色ガイロクニエエルハドウ

ニタノカト思へバ お紫ノチルユエヂヤワイ

せきを

裏のふて表のぬきとよとかりし山の終はちきばかりちと

○山ノお紫ハちヤ表ニ深ワテソレテ錦ノヤウニナルヤ スレヤ表ト

ちトガ終ノハタラ織ル堅ト横トノ系ノヤウナ物チヤガソノちト表

トノタテヨコノ系ガサ弱イサウナ ソレエカシテアノお紫ノ終ガ織ルカ

ト思へバヤ片一ガカラ破レルヤウニナリマス

うそんらんは本のつげふとをどしてよみら

傍心遍照

うびやしのまいてまゝこのちハ終むきをぬくお紫おらる

○ナニシナ身ハナカラ何ニテ難浪ナモノカナ コレハタノモニヨイ陰チヤト

思フテ思タテ、立ヨル本ノチハヨモ早ウお紫ガ表テニウチ ねむべき

カゲモナクウチニウタワイ 又ナニシナ者ノ立ヨル本ノチハトリウケテ早ウ

二條、右のまきふ乃みやと所とナキを時不許辱ん

小ふらつこ川小お紫おがれらるかゞ残るをり

らるを歎そよあゝ そせん

おみぢ終のほきてとあみあくおらるまきの終はほやまらむ

○はま田川ノお茶がヅトトヘナガレテイテトル湊ノアタリハマツカ  
イナ色ノヨイ浪ガタワデアラウカ

なりむけの船

ちりやが<sup>ほ</sup>神代もきうん<sup>ほ</sup>立田川かしくもねのふら<sup>ほ</sup>は

○はま田川ヘシゲウお茶ノ流レルトコロラ<sup>ほ</sup>バトト<sup>ほ</sup>紅<sup>ほ</sup>席<sup>ほ</sup>を<sup>ほ</sup>お<sup>ほ</sup>シ<sup>ほ</sup>ボ<sup>ほ</sup>リ<sup>ほ</sup>ト

見エルワイサテく奇妙ナ<sup>ほ</sup>カナ 神代ニサ<sup>ほ</sup>ぐ<sup>ほ</sup>ノキ<sup>ほ</sup>メ<sup>ほ</sup>ウ<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>ド<sup>ほ</sup>モ<sup>ほ</sup>ガ<sup>ほ</sup>ア<sup>ほ</sup>ツ<sup>ほ</sup>タ

ナヤガ<sup>ほ</sup>ハヤウニ川ノ水ヲ<sup>ほ</sup>お<sup>ほ</sup>ク<sup>ほ</sup>リ<sup>ほ</sup>グ<sup>ほ</sup>メ<sup>ほ</sup>ニ<sup>ほ</sup>タ<sup>ほ</sup>ト<sup>ほ</sup>マ<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>神代ニモ<sup>ほ</sup>イツ<sup>ほ</sup>カ<sup>ほ</sup>ウ

キカヌ<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>ヤ 。お秋云々<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>令<sup>ほ</sup>式<sup>ほ</sup>を<sup>ほ</sup>お<sup>ほ</sup>シ<sup>ほ</sup>キ<sup>ほ</sup>カ<sup>ほ</sup>ヌ<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>ヤ

是<sup>ほ</sup>久<sup>ほ</sup>み<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>お<sup>ほ</sup>れ<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>あ<sup>ほ</sup>や<sup>ほ</sup>ー<sup>ほ</sup>ゆ<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>船<sup>ほ</sup>也

こがま<sup>ほ</sup>つ<sup>ほ</sup>か<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>も<sup>ほ</sup>ち<sup>ほ</sup>ま<sup>ほ</sup>じ<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>ぬ<sup>ほ</sup>山<sup>ほ</sup>本<sup>ほ</sup>は<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>ら<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>と<sup>ほ</sup>ま<sup>ほ</sup>ふ<sup>ほ</sup>小

○此クラブ山ノ木ドモノコノハノ丸中<sup>ほ</sup>チリ<sup>ほ</sup>ニ<sup>ほ</sup>カ<sup>ほ</sup>ウ<sup>ほ</sup>ノ<sup>ほ</sup>デ<sup>ほ</sup> 今<sup>ほ</sup>ト<sup>ほ</sup>ホ<sup>ほ</sup>ツ<sup>ほ</sup>テ<sup>ほ</sup>来<sup>ほ</sup>  
夕方モドチカラキタヤラシ<sup>ほ</sup>ヌ

ゆのみ

神<sup>ほ</sup>ね<sup>ほ</sup>び<sup>ほ</sup>乃<sup>ほ</sup>み<sup>ほ</sup>む<sup>ほ</sup>ら<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>ゆ<sup>ほ</sup>秋<sup>ほ</sup>ゆ<sup>ほ</sup>け<sup>ほ</sup>は<sup>ほ</sup>流<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>ち<sup>ほ</sup>き<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>ち<sup>ほ</sup>ち<sup>ほ</sup>と<sup>ほ</sup>ま<sup>ほ</sup>れ

○今秋ノコロは神代<sup>ほ</sup>ノ<sup>ほ</sup>ミ<sup>ほ</sup>ム<sup>ほ</sup>ロ<sup>ほ</sup>ノ<sup>ほ</sup>山<sup>ほ</sup>ヲ<sup>ほ</sup>ト<sup>ほ</sup>ホ<sup>ほ</sup>レ<sup>ほ</sup>バ<sup>ほ</sup> お<sup>ほ</sup>茶<sup>ほ</sup>ガ<sup>ほ</sup>チ<sup>ほ</sup>リ<sup>ほ</sup>カ<sup>ほ</sup>ル<sup>ほ</sup>デ<sup>ほ</sup> 綿

ヲ<sup>ほ</sup>着<sup>ほ</sup>ル<sup>ほ</sup>コ<sup>ほ</sup>モ<sup>ほ</sup>チ<sup>ほ</sup>ガ<sup>ほ</sup>ス<sup>ほ</sup>ル<sup>ほ</sup>ワイ お秋云々<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>傳<sup>ほ</sup>う<sup>ほ</sup>き<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>倍<sup>ほ</sup>倍<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>

山<sup>ほ</sup>ノ<sup>ほ</sup>ゆ<sup>ほ</sup>み<sup>ほ</sup>ぢ<sup>ほ</sup>を<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>む<sup>ほ</sup>て<sup>ほ</sup>ま<sup>ほ</sup>わ<sup>ほ</sup>き<sup>ほ</sup>り<sup>ほ</sup>は<sup>ほ</sup>船<sup>ほ</sup>也

く<sup>ほ</sup>ち<sup>ほ</sup>家 貴<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>

る<sup>ほ</sup>ふ<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>も<sup>ほ</sup>ね<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>ま<sup>ほ</sup>ぬ<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>乃<sup>ほ</sup>お<sup>ほ</sup>茶<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>る<sup>ほ</sup>け<sup>ほ</sup>や<sup>ほ</sup>き<sup>ほ</sup>わ<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>ら<sup>ほ</sup>と  
○ナ<sup>ほ</sup>デ<sup>ほ</sup>モ<sup>ほ</sup>セ<sup>ほ</sup>ン<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>イ<sup>ほ</sup>ラ<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>夜<sup>ほ</sup>ノ<sup>ほ</sup>終<sup>ほ</sup>ト<sup>ほ</sup>云<sup>ほ</sup>キ<sup>ほ</sup>ヤ<sup>ほ</sup>ガ<sup>ほ</sup>ス<sup>ほ</sup>ル<sup>ほ</sup>人<sup>ほ</sup>モ<sup>ほ</sup>ナ<sup>ほ</sup>ニ<sup>ほ</sup>ハ<sup>ほ</sup>ヤ<sup>ほ</sup>ウ<sup>ほ</sup>ニ<sup>ほ</sup>ム<sup>ほ</sup>ダ<sup>ほ</sup>ニ<sup>ほ</sup>散<sup>ほ</sup>テ<sup>ほ</sup>シ

一ウ夕奥山ノ紅葉ハナレボスウテ海ノヤウデモマアトニ夜ハ海チヤワイ

秋のく

わきとれま

立田姫もむらさけのあれがを秋の紅葉はむぎくちりらめ

○立田姫ハ林檎チヤカソレデモ又心手向ナサル林檎ガアルヤラコウ

心自刃ノ血染ナサタ紅葉ガアレトトモ向ノ麻ヲチラスヤウニチリマス

少せしりふきし後ふきみゆきし時ふみぢらとええ

くさくさ

ほくゆき

秋の山に紅葉はむらさけもむらさけもむらさけもむらさけも

○秋ノ山テハアレイトホリニ紅葉チルヤウスガテウド旅人ノ多クナリ林檎ノ麻

ヲチラテ手向テウクヤウニエテヨウテ住テ居ルコトチテカドウマラ旅ノコチカスル

秋の山をむらさけとてくちりらめを海りきりゆきし紅葉

乃ねがれとてくちりらめきりらめゆきし紅葉

秋の山をむらさけとてくちりらめを海りきりゆきし紅葉

○コチモ今秋ナレトテキテ立田川ヲ渡ルガ昔テウク秋モノトホリテ

神ノコサル林檎ノ山ノ紅葉チモウ散テラハヒテ西ユケバアレアノヤウニ紅葉ノ麻

ヲバ立田川ヘリタテテ 秋の山をむらさけとてくちりらめを海りきりゆきし紅葉

小橋上登りての山渡りのくちりらめはくちりらめ

紅葉はむらさけのむらさけのむらさけのむらさけ

ふらふら秋のこのむらさけのむらさけのむらさけのむらさけ

○浪ノウノ木葉ノチウテウテアルハ楓ノ風ニタ船デチイカトサエル



立田川のほとり遊しある 坂上 是則

もみぢら茶はちふがねぶうせをま田川名の秋をばあれうまうし

○木葉ノ青イハ色アカルテ秋ガヒルガ水ノ青イハ色カマヌ物ナバ秋ガヒヌ

ニ今立田川水ヲスバお茶ガ流レテ秋ガヤトキガヒタモヒヤウニお茶ノ

流レテガナイスバ水ノ秋バドウキ誰ガヒラウゾニルモノハアルニイ

あがねごえましよるもみぢらほけき

ふほり風おけけしきまを流きもひぬもこぢりウリ

○出川へ風ガモテキテシガラミラカケタトんエルハ手ガヒモセズニ上ツテアル

お茶ガヤウイアル風ガフクデアリシゲウお茶ガ散テセキカケク流レタルニ

シツテサラクトトへエ流レテハイカズニアントホリニシカラミヤウニヨトムヤ

比のほとりにてお茶のちるこまみつ線

風ゆをばあつもみぢら茶あはらしき新さく産りく

○風ガフケバチトツソクお茶ガチリカケタカハ比ノ水ガキヨサニマシテラ

ズニ枝ニアルお茶ノ新マデガウコヨウウツテハヤ大分散ヤウニスエル

亭子院のほ屏風の移り川さく

もみぢらねらる木のゆふるはひくくあてを

よむを流いりこづらうゆりもき

あちらどあつを海しひのみちをみゆめどもあはまを

○ヒラクま上ツテアルお茶ヲステカラハ川ハ流ラウ雨カフバみガマシテ

川ガ流ラヒヌヤガお茶ハぬヤウニシボフツタトモ水ハヒスマイホドニ

是れみよのあはれあ合のちしゆのみよ

山田も秋のかりわ小おくまはといふおれをききの後なりきり

○秋ノコロ山ノ田ノ番ヲスルハ小庭へはヤウニオイトハ 稲負もガ  
ハゴロオテシゲウマバソノナミダキヤワイコロハ

野ーらば ともみ人あーら

ほふと出ぬ山田をりふとぬげねいなるのあふぬまぬ日ハなし

○マダ穂モテ又山田ヲトウカラ番ヲスルトテ毎ウク 稲ノ葉ノオデキル  
モノ、ヌレ又日ト云ハナイ 百姓ト云者ハアノナギナモノギヤハヤウナ

ヤウスヲ上ニハ山田知アルマイガ 殿ねハワヤーき者のききりのし  
秋云も君も人とおく小庭くんととてし時いよまきらんととてきき人乃  
山田も出ぬなり又まき人の下下れまきもよとちりーりすへきい

かきつぬふあつらむつらめりわ小ぬぬせ成今もふりききとぬしり

○菊テヒウタ田又アトハマタヒツチノ穂ノデヌハ 時モモウ秋カハテタ  
世中ヲモウアキハテタシバ今サラ穂ヲサウキハナイト思フナ

小山は清正遍昭しわけづらもふりあまありとあはれふ  
しんる せむは師

かみちち神小ら記つきてしむむ秋ハ浪とんじんのし先

○はお葉ヲバ袖ヘコキオロシテ入テ持テハ山ヲ出テイニテヤケニセウハ人定  
ムテ秋ハモウハヤシイギヤト思フテ居ルアヲガサウ思フテ居ル人ノタメニ

先年清正あまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう  
左側もみちち葉がらとらふりあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう

心をよめりきき おきこのせ

みやびのちりてなごもあはれをよめて秋は限りし思ひしをぬる

○モシヤ深山ナドニハニダ秋ガ妙フテアルデモアラウカト思フタガ  
ハヤウニ深山カラ 夜々お紫ノ流レテクルあノ色ヲ見レバササテ  
ハモウイヨク秋ハシニヒニウタト思ヒニツタ

秋はも川を流るるを立田に小舟ひやアとてよめ

はるゆき

と年あつにもみち紫花を立田川みるもや秋のさゆりあつむ  
○毎年く秋ノお紫ヲ 筏ヤ船ノヤウニ流レテヤリ立田川ハ川下ノ  
湊ガ秋ノトマル所デアラウカイ ソレヲ湊へる子テイテ秋ニ逢タイ

モノチヤクヒテユクノハノコリオホイ秋チヤニ

あつぎきのほどもりは日大井少てよめ

夕月花をぐはるりし席のあつちちや秋はくしむ

○一ケフハ九月晦日デモウロモクヒカタニウタガアレク小倉山デ鹿  
ノナク長イ声ノキレヌウチニハヤ秋ハクヒテシニウデアラウカ  
何しはるり日ある みつこ

さあはるのつのもゆきりみち紫をぬるもや秋はふるり

○秋ハモウお紫チルヲ道ノ神ノ麻ニシテ手向テ旅立ニテイニマウ  
タワイサテモく妙り多イノカナ道ヲシタチラ跡カラ見テナリヒユカウ

古河新集卷第六巻後

冬

野山

よき人

多し川海ありかくかみる月あはれのあをとしぬきふし

○立田川人お祭りあて流しルトコロアスバ 内面ノ系ノヤウナアウ

望換ノ系ニシテ機ハカケテ海ヲ穢ルトスエル

冬ノあそびよめ

源宗千太郎

山里ハ冬をとりびりきまつきりきり人あしあもかきぬとんを

○山里ハイツテモサビイガ冬ハサツテサビイガ冬ハサツテサビイ人ノコトヲ人目が

カレト云チヤガ今マデハタマク足少人目モカレ弟モ枯メニヨツテサ

かきぬとんをとりびりきまつきりきり人あしあもかきぬとんを

野山

よき人

大空の月あはれし月も色バ新スーあそびつこりりきり

○昨夜ノソラノ月ガキツウサエタニヨツテクノ新ノ足エ水ガササハアノ

ヤウニツツバニニコホツクワイ

○小林云ニのり炭灰万葉明詠るいふき

夕きもば夜もけむしみよりせけよりけふふこもぬし

○ハゴロハユフカタニハバイカウキイマツ着ニヤナラヌコレハモウ

吉野山ハハチガフツタサウナ

いよしうハはききてぬしなむいふ家のあやめぬあやめ

○コレカラハツバイテ膝ハフレカシコチノ庭ノス、キヲオシナビカシテ  
ツモツタアノ雪ノケキキツウオモシロイ

ぬるちちか門をきぬししゆ<sup>ひ</sup>まきの山はけつせまやうと

○山ハ雪ガフルヤウスヤガフルウキニハヤ片<sup>かひ</sup>ニ方カラサキエルサウナツノ

雪ドケトスエテアノ山カラ流レ落ル川ノ水ガミシテまガアレ高ウナツタワ

け川ふりみぢら系ねがく山のちをまればあど今満さうしし

○此川ハお葉ガ流レルコニハ流レテコナガ<sup>五のいま</sup>今アノヤウニ流レテキタノハ川上

ノ奥山ノ雪ドケテ水ガ増タサウナツテ川上ヨドテアウタ木葉ガ今流テクルヤ

あつとよしゆふしちうくれをむし日もみぢあつぬ日とあし

○は吉セノ里ハち山ガ近イニヨツテケガ十一日モ雪ヲフラヌ日ト云ハナイ

氷屋ぞハ雪ゆりちきしてさよねしあこかてとよししねりまは

○コチノ庭ハイナメニちガツモツタマデ道モナイフニ余テ辰子テクル人

ガナイチヤニヨツテサ<sup>を</sup>ツテクル人がアラウナラセメテハレテアラウニ

冬のちとくしあゝ 紀やうく

ちねとびあごのりをちあもあふふしねぬをどさだた

○冬ガレテマダメモデヌ草モ本モ<sup>を</sup>ガフルハよニサタナレ花ガササ

イタウイソウタイ花ハよニナツテ咲クモノチヤニ

あがれ山がえきしてよめ きののりきまひ

白ちねとびあごのりをちあもあふふしねぬをどさだた

○<sup>を</sup>ガドコトニナニタラメニツモツタ木<sup>ハ</sup>テハナウテ花ノサクマイ岩

ヘモサ花が咲タト見ユル  
。十枝云云。其の山に云々。花の名ど。しりなれ。ハ。その花の。と。ひて。よ。り。あ。ん。

な。く。は。あ。ふ。ま。か。と。り。り。と。は。よ。や。し。れ。り。き。と。お  
ろ。く。し。よ。を。は。 ね。と。あ。の。こ。

み。よ。ー。中。の。山。れ。あ。く。を。は。め。う。し。を。な。ま。く。り。り。ま。さ。り。あ。り  
○今夜ハ吉野山ノ雪がイカウツモルサウナ ツレデ此ヘシマテガコノ  
ヤウニダシクサムサガニサルナヤ

室千代時きさのあはれあのうぬづりしあきさうせ

浦ちやくゆりく。雪ハあ。く。は。の。末。乃。う。り。山。を。か。く。と。み。る  
○カノ奥州ノ末ノ松山ト云所ハ古クニ浪モコエナトヨシテアツテ名ノ  
さ。い。ー。ナ。ヤ。ガ。今。カ。ウ。海。を。追。イ。あ。く。雪。ノ。フ。ツ。テ。ク。レ。ケ。キ。ハ。白。い。浪。ガ。マ。コ

トニソノホノ松山ヲサコエレノカト見ユル 物材は初句と末の松山乃  
あ。く。り。の。浦。く。り。く。り。あ。や。が。い。は。浦。に。づ。く。ふ。れ。海。の。浦。に  
壬午。乙。未。

み。よ。ー。中。の。山。の。あ。く。雪。ゆ。く。か。て。い。つ。や。く。の。お。づ。も。ま。あ  
○吉野山へ涼イ雪ヲフミ分テコモツク人ガ。以後一向ニオトツレモナイガ  
雪ガ降。く。フカウナツテ使リモシラヌ。フカイヨク。せ。り。ナ。カ。を。き。氣。ノ  
ツヨイ。和。ナ。レ。バ。モ。シ。ウ。ツ。ラ。ハ。レ。ナ。ド。ハ。セ。ヌ。カ。ア。ン。ジ。ラ。ル。ノ。ウ。イ

ふ。雪。の。あ。り。て。は。む。き。く。山。里。ハ。ら。む。人。と。や。あ。ひ。き。ゆ。し。ひ  
○雪ノフツテ降。く。フカウツモツタ山里ハサツヤキウハアラウシサビシウハア  
ラウシ サウ云所デハ。住テ居ル人。マデガ心ノキエイルヤウニ思フテカナアラウ

雪ハニミイニ消ルモノチヤガソノ君ノヤウニサ心マデガ

君ハあつて居てよき 元何内ら様

君ゆりてくも海らぬさねもや路をうとぬくおひきまひ

○雪フリニカウシテ居ル我心ハストバハヤウニ君ガフツテ人トホリモ絶テ

足跡モナウナツテソコト云物モシヌヤウニ消テニウ道ノヤウナ物ヂヤヤラ

カウシテ居ル心ガキエユヤウナ 。ふ秋云三の夕のあまや。ほ夕のらんとの

あつてい此洋とくく味いてちるべし。

あつてい此洋とくく味いてちるべし。

○マダ冬ナカラヤカラアノヤウニ花ノ友テクルハアノヤウニアチラハモウ  
まニヤカシラヌ

雪のあふふりぬくまらときくはとまら

つゆき

みづのうしおのひうをぬきとちのまより花とるまで君ぞあつら

○今ハ冬ガレテマダメモテヌアノ本ナバ思ヒガケモナイニ枝ノアヒダ

カラ花ノチルトスエルホドニサ君ガフルワイ

やまやけあふはうぬくまらと時ふ雪のあつらきぬは

つてしよき

おがけあつたの月とるまふよりけり里にふれは白雪

○名夜ノクワリトアケタ時ニスバテウドをぬく月ノ沙ツタ新トスルホドニ

君せり里へ君ガフツタ 。ふ秋云おがけのあつたきハ明のつまらくる。年中





ヲラウヅドウモスカタニクイ

ヨソへイタ人ヲ  
おすかりり人をもまらしむるをのつぶら

ア〜とらんふ  
みつ

つがゆ〜ぬ年ハ年ぬれど冬あのかれ人ハおづきせせど

○コチガムモセヌ来年ノ年ハモウ近ウキタケル 今ジブレノ草ヤウニ

カレテヨソへイタ人ハコチガコホド待ツニマダカツテコヌノニナラズ子カラ

オトツレモセヌカレト云ハヨソへイテヨリツカヌヤヤゾイ

ア〜とらんふ  
あ〜とらんふ

ア〜とらんふ〜のそ〜りふ〜と〜も〜と〜あり〜

○□年ノ終リニナルタゴトニモモフリヤサルガコチガ身モ腹フルサガマ

ソツテリ次ガ二年カヨツテイクア〜コツタモノヤ

寅年ハ時きまのまらるるのうよム人まらる

雪ふら〜と〜年のそらぬるゆ〜と〜つひ〜み〜ぬねも〜

○今マデ考ヤ考ヤゆぬカフツモ松ハ色ガカラナシタガエデモマダ

ウ〜雪ガフツタラバモシ色ガカレデモエフウカト思フタガ今ハヤウニ考ガフツ

テモヤツハリ色ハカラスニモウ年ガタレタカラハサテハト〜シ〜ウ色ノ

カハラヌ松ヤトヌーモゴ〜デコソスエタモナレ

と〜のそ〜ふ〜と〜と〜ふ〜の〜

ゆ〜と〜ひ〜り〜と〜して明日も川流れてもき〜

○昨日今日明日ト云テ一日トクラニテツイモウ年ノクニナツタヤ

アスカノ水ノ早ウ流ヒテカラウニ アサク早ウ多ク月日チヤワイ  
あまねくあやせしきしあふよみてなれり

きつりしゆき

ゆへにしほをくそとみそくぬまを焼くふれんふれぬとを

○年ノモルニミタガウテ 次ガニ 焼テスル 彩テガ ツムリカサ多白ニツテ

面ハシワカヨツテイヤウニオイヒテイクト思ハサク暮テユク年ガア  
ラニウ思ハル一カナ

まかぶと二のまじけを

